

日本体育大学学友会アーチェリー部同窓会並びに関係者の皆様

昨日までの王座決定戦では応援ありがとうございました。

沢山の OBOG、保護者の方々から差し入れをいただきました。

厚く御礼申し上げます。

また、試合後にも沢山の方々からお電話、LINE、メールをいただきました。

重ねて御礼申し上げます。

三年ぶりの有観客の王座決定戦、今の四年生しか経験していない中での部員全員での王座に挑みました。

コロナ禍において、夏も春も合宿が出来ずプログラムである人間力向上、助け合い、日体大が日体大である為の伝承が完全には出来なかった状況の中でありました。

しかしながら、着実に日体大アーチェリー部の合理性は進歩しています。

選手はもちろんの事、応援は四年生が部員を引っ張り全力で応援してくれました。

応援団長の三年松見を筆頭に有声、無声の応援スタイルを構築してくれました。

開催要項には大声での応援は禁止となっており、非常に判断が難しく、他大学が声を出して応援している中で、日体大は完全無声応援を貫きました。

メガホンを叩くのみの応援スタイル。昔の伝統でもあった無声応援。

圧倒的に応援は日本一でした。

現場の状況、瞬時の決断に、対応できる適応力、イメージが出来ない中での練習の成果です。鳥肌が立ちました。

そして、決勝戦では沢山の他大学の選手関係者が一緒に応援してくれました。

部員たちには、沢山の方々愛される・応援いただける選手・日体大になる事をずっと伝えてきました。

この王座決定戦ではその光景を感じることができ、感動し、全身でビリビリ電気が走り続けました。

常に新しい戦術と戦略を考えながら一丸となって目的を達成する日体大であり続けたいと思っております。

そして、そのことが必ず将来に役に立つ時が来ると信じております。

皆様本当なありがとうございます。

後輩たち、日体大をこれからも何卒宜しくお願い申し上げます。

つま恋までいらしていただいた藤川先輩、嶋先生、坂野君、山本君、不破君、河田くん、上田さん、保護者である戸松様、松下様、村石様、渡邊様、松川様、そして事前から当日まで差し入れを送っていただいた沢山の方々、心より感謝申し上げます。

日本体育大学学友会アーチェリー部監督 藤本 浩